

平成 20 年度

## 病害虫発生予察注意報（第 3 号）

平成 20 年 7 月 4 日

茨城県病害虫防除所

**ナシ黒星病が、平年より多く発生しています  
7 月は「幸水」果実が感染しやすい時期なので、  
防除を徹底してください！**

### [ 発令の内容 ]

作物名：ナシ  
病害虫名：黒星病  
発生量：多い  
発生地域：県下全域

### [ 発令の根拠 ]

6 月下旬現在，県下全域で発生が多い傾向である。発病葉率及び葉での発生地点率は全県で平年より高い（表 1）。また，発病果率及び果実での発生地点率も県南及び県西地域では平年より高く，県北地域では平年よりやや高い（表 2）。

本病は，降雨により伝染するため，今後梅雨明けまでは黒星病の発生に適した気象条件となりやすい。また，7 月は「幸水」果実が感染しやすい時期となることから，徹底した防除対策を引き続き十分に行う必要がある。

表 1 葉における黒星病の発生状況（6 月下旬調査）

調査地域 (調査地点数)	発病葉率(%)		葉での発生地点率(%)	
	本年(順位 <sup>1)</sup> )	平年 <sup>2)</sup>	本年(順位)	平年
県北 (4)	1.8 (1)	0.5	75 (1-3)	46
県南 (6)	2.1 (1)	0.8	100 (1-3)	59
県西 (9)	1.1 (1)	0.1	89 (1)	11
<b>全県(19)</b>	<b>1.6 (1)</b>	<b>0.4</b>	<b>89 (1)</b>	<b>34</b>

1) 過去 10 年間における本年値の順位を示す。

2) 1998～2007 年までの平均値。

表 2 果実における黒星病の発生状況（6 月下旬調査）

調査地域 (調査地点数)	発病果率(%)		果実での発生地点率(%)	
	本年(順位 <sup>1)</sup> )	平年 <sup>2)</sup>	本年(順位)	平年
県北 (4)	0.6 (4)	0.4	50 (4-6)	45
県南 (6)	0.8 (2)	0.2	100 (1)	19
県西 (9)	0.5 (1)	0.0	78 (1)	11
<b>全県(19)</b>	<b>0.6 (1)</b>	<b>0.2</b>	<b>79 (1)</b>	<b>20</b>

1) 過去 10 年間における本年値の順位を示す。

2) 1998～2007 年までの平均値。

## [ 防除対策 ]

発病した葉及び果実は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める。

果実肥大盛期となる7月は、「幸水」果実への感染が再び盛んになるため、DMI 剤の散布を必ず実施する。

薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安に、風圧及び走行速度を調整したり、縦横の井桁走行を行うなど、かけむらのないよう丁寧に散布し、防除実施後は薬液が葉や果実に均等に散布できたかよく確認する。なお防除の際は、**周囲への飛散（ドリフト）に十分注意して行う。**

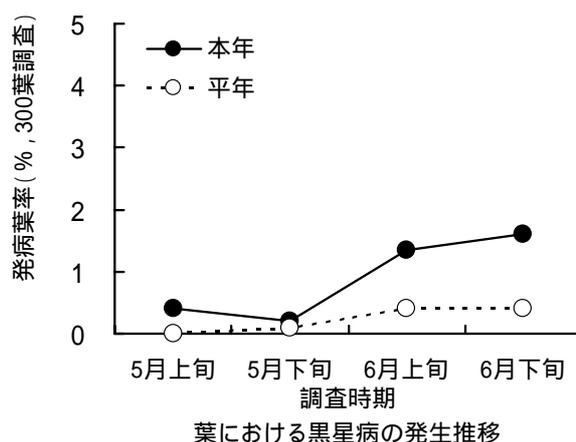
ほ場の周縁部や、枝葉が混み合ったところは、薬液がかかりにくいので、手散布等により補正散布を行う。

梅雨明けが遅いなど、7月下旬に降雨が多い場合は、果実への後期の感染を防ぐため、追加防除を行う。

**農薬を使用する際は、農薬ラベル記載の使用方法、注意事項を確認のうえ使用する。**

## [ 黒星病の発生経過 ]

病虫害発生予察注意報 第 1 号 (H20.5.1) の発表後、5 月下旬の調査では、本病の発生は減少しましたが、6 月上旬以降は再び増加傾向にあります。今後は果実への感染を防ぐため、さらに防除を徹底する必要があります。



昨年の収穫期以降に発表したナシ黒星病に関する発生予察情報（定期的な情報を除く）

H19.10.6 病虫害情報 No.12 （秋季防除）

H20.4.15 病虫害情報 No. 2 （開花前後の防除）

H20.5. 1 病虫害発生予察注意報 第 1 号 （防除対策の徹底）

これらの情報は、病虫害防除所ホームページよりダウンロードできます。

**平成 20 年度農薬危害防止運動実施中** 農林水産省・厚生労働省・都道府県共催

周辺への飛散に注意/農薬ラベルを確認/マスク、手袋、防除衣の着用/保管は鍵のかかる場所で